

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野の4領域において、指導教員への任用を促進し、学生が選択する研究テーマの広がりに対応できる研究教育組織を構築する。	→指導教員の追加任用 (2013年度までに1名)。	C	C	/	/	/
2. 担当の見直しを行い、上記4分野の教員が、「キリスト教神学・伝道者コース」ならびに「キリスト教思想・文化コース」の双方を担当することを分かりやすく明示する。	→担当者を含めた履修モデルの作成と公開 (WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映 [心得に掲載]) (2013年度までに作成・公開)	C	C	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 神学研究科の教育研究組織については、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) 策定の過程において検証している。より広い研究テーマに対応する必要があるが、現行においても4分野を担当する教員は準備されており、理念・目的に照らして適切であると確認している。
☆ 小項目4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) <u>いずれかにチェックしてください。</u> →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 2010年度には、ディプロマ・ポリシー (学位授与方針) を策定する過程において、教育研究組織の適切性について検証を行った。2011年度にはカリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針) の策定を開始しており、その過程においても引き続き検証を行っている。
その他	

《評価指標データ》

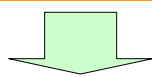
- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

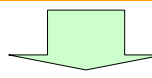
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	4分野に照らして教員組織は適切であるとしながらも、より広く学生の研究テーマに応えることができるよう、指導教員の任用（2010年度実績なし）に努力すべきである。
☆小項目4.0.2	
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	学生が選択する研究テーマの広がりに対応できるよう、指導教員の任用を目指す。
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○設定目標の進捗評価の向上への努力が望まれます。

【学内委員】

○小項目4.0.2について、各種ポリシーの設定後も、定期的・継続的に検証することが期待されます。

○4.0.2では適切性についての検証結果も記述されてはいかがでしょうか。

○本項目について、大学基準協会は「教育研究組織は、大学における活動単位として機能するものであり、各大学の特徴はもとより、学問の動向や社会的要請、大学を取り巻く国際的環境に適切に対応したものである必要がある」と解説しています。従って、貴研究科が大学の理念・目的を踏まえ、これらを満たしているかを聞いていると考えます。この視点で記述をご検討ください。

○分野や教員の任用は他の項目（「6.2 教育課程・教育内容」「11 教員・教員組織」）での記述内容です。

○理念・目的の検証と絡んで、組織の適切性については絶えず検証が必要です。

○小項目4.0.2について、「定期的に」検証できる仕組みの具体化が望まれます。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 神学研究科は、キリスト教宣教のための「高度な専門的知識を具えた職業人」を育成することを使命とし、キリスト教界、とくに教会やキリスト教主義学校教育、社会福祉や社会活動の領域において「指導的な役割を果たす人材」を送り出すことを目的としている。また神学の領域では「独創的な研究者」を生み出すなどの実績を挙げていくことが期待されている。そのような観点から、4つの専門分野（聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野）を設定し、キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コースの2コース制を設けた前期課程、さらには、より高度で独創的な研究を行う後期課程を設置し、それらを担うべく教員組織を整備している。